

件名		要旨
伊藤玲子	16 原体験・自然体験施設である「青少年自然の森」の更なる活用と充実について	(1) 子ども達を取り巻く現状を踏まえ、原体験・自然体験の持つ意義・役割について (2) 茅野市青少年自然の森の現状について (3) 原体験・自然体験事業充実のための予算の拡充について (4) 係制の導入について
	17 非核平和宣言都市としての非核・平和行政の更なる充実について	(1) 非核平和事業について (2) 市民対象の取り組みの更なる充実について (3) 茅野市戦没者等合同追悼式を市の主催が共催での実施について
大久保功身	18 局地的豪雨による河川の越水対策について	
	19 陸上競技場インフィールド（天然芝）に関する要望について	
	20 教職員の職務改善について	
野沢明夫	21 道水路工事等の受益者負担金について	(1) 都市計画建設課関連工事に負担金がない理由 (2) 農業関連工事の負担金を規定する条例内容 (3) 負担金の有無に関する問題や課題案件はあるか
	22 野焼きについて	(1) 苦情内容と件数 (2) 苦情対応の部署と方法
	23 寄附募集行為について	(1) 届出は、どのような内容か (2) 募集中の管理はされているか (3) 処分の管理はされているか
堀晃	24 ひばりヶ丘市営住宅と用地のあり方について	(1) 空き家、空き地の状況 (2) 経過と今後の利用計画 (3) 家賃滞納の状況 (4) 宅地分譲に踏み切ることが望まれているが是非実現を (5) 地元の要望をどの様に反映させるか
	25 スポーツ施設の利用状況と使用料金の改定について	(1) 利用者数の傾向と市外者の割合 (2) 見直しに当たっての基本的な考え方 (3) 通年使用料の計算の基礎と期間について (4) 有料施設と無料施設があるがその見直しもするのか (5) 利用者の意見はどのような形で聴取するか
伊藤勝	26 農業後継者の育成について	(1) 農業振興ビジョンにある就農サポート（後継者育成）の取り組み (2) 青年就農制度（新規就農）の市の現状 (3) 今後、農業における後継者育成の考え方
	27 農地・水保全管理支払交付金事業について（向上活動）	(1) 減額を受ける実施地区へ市としての対応 (2) 市独自の対応策
伊藤眞智子	28 防災対策について	(1) 原子力災害にも対応する防災計画について (2) 要援護者支援対策の充実について (3) 集中豪雨対策について (4) 防災マップの活用について
	29 引きこもり・ニートなど困難を抱える若者への支援について	(1) 引きこもり・ニートの実態について (2) 現在の市の対応と課題についてどう捉えているか (3) 今後の施策について
勅使川原はすみ	30 スポーツ大会・合宿誘致推進による戦略的なまちづくりについて	(1) 大規模なスポーツ大会・合宿誘致推進を図る組織の立ち上げについて (2) 合宿誘致に関する課題と今後の取り組み (3) 大会開催時の競技団体と宿泊・交通・観光業者及び行政の連携について (4) 各種PR及び支援について (5) 大会開催及び合宿による経済効果について (6) 平成25年度開催の全日本ジュニアスピードスケート大会について
小松一平	31 一般廃棄物処理基本計画について	(1) ごみ処理施設の一元化 (2) ごみ減量化の取り組み
	32 上川バイパスの整備促進について	(1) 鬼場付近から横内地籍までの延長整備（諏訪方面車線）の見直しと課題
望月克治	33 難聴者の補聴器を補助する磁気ループシステムの導入について	(1) 行事、会議、説明会などへの難聴者の参加者数を把握しているか (2) 行事、会議、説明会などへ難聴者の方に参加していただくための手法はとられているか (3) 誰もが安心して暮らすことができる磁気ループシステムの導入はできないか
	34 来年度予算の編成方針について	(1) 来年度の徴収率等の見込みについて (2) 市の財政調整基金についての方針 (3) 市の繰越金についての指針 (4) 現状での市長の来年度予算方針 (5) 住宅リフォーム助成制度の延長について (6) 再生可能エネルギーは重点項目として考えているか (7) 防災面からも森林整備は重点項目として考えているか (8) 市民の生活は厳しいものになっていますが、その方々の生活を支える施策をとりいれないか

行政視察報告

市議会では、市政の発展と向上のため、常任委員会ごとに視察目的を定めて、先進的な他の自治体等を訪問して研修を受けています。

総務委員会		文教委員会	
委員長	細川治	委員長	幸保治
副委員長	小池賢	副委員長	克治
委員	望月克	委員	はすみ
委員	勅使川原	委員	正吉
委員	山岸平	委員	洋治
委員	小平山	委員	積
子ども部長	牛山		
議会事務局	加賀美		

災害廃棄物について

宮城県石巻市 7月2日(月)

視察目的

平成23年3月11日の東日本大震災に伴い、膨大な災害廃棄物が発生しました。その処理状況を伺い、広域処理の可能性及び今後の防災対策について視察を行いました。

石巻市における

災害廃棄物処理の現状

一次処理：現地より仮置き場（21箇所）までの収集運搬は石巻市が行う。平成24年5月末で318万トンが搬入済（71%）

二次処理：仮置き場から運搬・分別・破碎・焼却・最終処分までは宮城県で行う。放射性物質・空間放射



石巻市の災害がれき仮置き場

線への理解と測定値管理が課題。処理目標は、平成25年3月まで。

処理方法は資源化を基本としていて、有価物（金属、自動車等）は売却。リサイクル材（コンクリート殻、タイヤ等）はリサイクル利用。可燃ゴミは石巻ブロックにおける処分を優先し、他自治体へ協力要請。不燃物（ガラス、陶器等）は市内処分最優先、他自治体へ協力要請。焼却灰は市内処分優先、他自治体へ協力要請。被災自動車は推定被災台数6万2,625台で、民間業者へ委託。

所感（茅野市での展開の可能性）

がれきの広域処理について、石巻市では可燃物を中心の災害廃棄物は、最終処分までできることを条件に要請

を考えており、部分的な処理については、現在はその調整や対応がとれる状況ではないとのことでした。したがって、トータルで処理ができる自治体と交渉中で、現地では、最終処分場まで整えた広域処理の規模が必要であり、そういう所を希望していました。トータルのな処理ができない所は、例えば金銭的な支援でもよいのではないかと、しかし、支援のための現地との調整をきちんと取ってからの行動、もしくは国の方針などを見極めることも必要だと感じました。復興のために大手ゼネコンが参入してきており、それが地元業者にとつて有益な仕組みなのか、心配や疑問を感じるところでした。地元業者の早期復興への思いと、高度な技術力やトータル管理のバランスが見え隠れしていました。

防災行政については、茅野市でも大災害を想定した行政間の連携や、広域防災訓練の必要性を感じました。

震災後の取り組みについて

宮城県吉本郡南三陸町 志津川中学校 7月3日(火)

視察目的

被災後に避難所となり、直後から学校運営ができなかったが、その後の再開までの過程について、また、防災教育をどのように進めているかを視察しました。

避難所（志津川中学校）の運営

①生徒の無事を確認、校舎の活用、避難所の統制、リーダー会議



基礎だけ残った住宅地 (志津川中学校より望む)

②町内会単位の生活、避難所生活の向上、協力体制の強化
③学校職員の取組、防犯パトロール、野外トイレの設置
④学校再開の取り組み

①自宅流出職員の対応、休業処置
②子どもの教育(学習会)とケア、卒業式、始業式、入学式
③就学援助、転校、スクールカウンセラー「児童生徒の心の変化に気づくのが担任である」

防災教育について

①普段から学年を通じた活動ができる組織があった
②職員自家用車の駐車場の仕方(止め方を決めていた)外部者との区別
③学校危機管理のあり方(毎月「安全日」の大切さ)
④学校が避難所になったときのシミュレーションをしておく
⑤避難所として学校に準備しておきたい物品(水、毛布、非常食、ストーブ、ラジオ、ソーラー発電機・電池、衛生用品)